

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-189443

(P2017-189443A)

(43) 公開日 平成29年10月19日(2017.10.19)

(51) Int.Cl.

A 4 5 D 29/00 (2006.01)

F I

A 4 5 D 29/00

テーマコード (参考)

審査請求 有 請求項の数 10 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2016-81228 (P2016-81228)
 (22) 出願日 平成28年4月14日 (2016.4.14)
 (11) 特許番号 特許第6057446号 (P6057446)
 (45) 特許公報発行日 平成29年1月11日 (2017.1.11)

(71) 出願人 516013310
 東 みほ
 大阪府大阪市中央区南本町 3-3-22
 本町エイトビル9階 株式会社D i v a 内
 (74) 代理人 110000947
 特許業務法人あーく特許事務所
 (72) 発明者 東 みほ
 大阪府大阪市中央区東高麗橋 1-12 北
 浜センタービル8F 株式会社D i v a 内

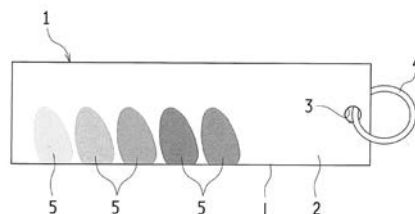
(54) 【発明の名称】 ネイルカラー見本帳

(57) 【要約】

【課題】 ジェルネイルのネイル施術時に扱い易く、塗布するネイル剤の色を決定するのに好適なネイルカラー見本帳を提供する。

【解決手段】 ネイルカラー見本帳 1 は、複数枚の見本帳本体 2 と、見本帳本体 2 をひとつに束ねる結束手段とを有する。見本帳本体 2 には、ネイルカラーの見本色を示す複数の表示部 5 が備えられる。表示部 5 は、人の爪形状を模した形を有しており、爪形状の根元側が見本帳本体 2 の辺縁部に接して配置される。また、表示部 5 は、爪形状の長さ方向の中心線が辺縁部の稜線に対して一方向に傾くように配置されている。

【選択図】 図 1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

ネイルカラーを表示したネイルカラー見本帳であって、
シート状の複数の見本帳本体と、前記複数の見本帳本体をひとつに束ねる結束手段とを有し、

前記見本帳本体には、ネイルカラーの見本色を示す複数の表示部が備えられ、前記表示部は人の爪形状を模した形を有しており、前記見本帳本体の辺縁部に沿って複数の表示部が並べられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 2】

請求項 1 に記載のネイルカラー見本帳において、

10

前記表示部は、爪形状の根元側が前記見本帳本体の辺縁部に接して配置されるとともに長さ方向の中心線が前記辺縁部の稜線に対して傾くように配置されていることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載のネイルカラー見本帳において、

前記表示部は、前記見本帳本体の表面側に凸状に設けられており、該表示部の裏面側に指先があてがわれる凹部を備えることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 4】

請求項 1 ～ 3 のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体は地の部分が透明または半透明とされたことを特徴とするネイルカラー見本帳。

20

【請求項 5】

請求項 1 ～ 4 のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体には、1 シートごとに同一色相または類似色相についての異なる明度色を示す表示部が並べられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 6】

請求項 1 ～ 4 のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体には、1 シートごとに同一色相または類似色相についての異なる彩度色を示す表示部が並べられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 7】

30

請求項 1 ～ 4 のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体には、1 シートごとに同一色相または類似色相についての異なるトーン色を示す表示部が並べられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 8】

請求項 1 ～ 4 のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体には、1 シートごとに同一の明度または彩度についての異なる色相を示す表示部が並べられ、

前記複数の見本帳本体は、前記 1 シートごとの表示部の明度または彩度の高低順に重ねて束ねられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 9】

40

請求項 1 ～ 4 のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体には、1 シートごとに同一のトーンについての異なる色相を示す表示部が並べられ、

前記複数の見本帳本体は、前記 1 シートごとの表示部のトーンが互いに類似するものを順に重ねて束ねられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 10】

請求項 1 ～ 9 のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

ひとつに束ねられる複数の見本帳本体は、その束ごとに、前記表示部の見本色が、フォーシーズン分類に基づく春のグループ、夏のグループ、秋のグループ、および冬のグループにまとめられていることを特徴とするネイルカラー見本帳。

50

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ネイルカラーを表示したネイルカラー見本帳に関する。

【背景技術】

【0002】

手や足の爪を装飾する手法として、マニキュアのほか、光硬化性樹脂を含むネイル剤を用いるジェルネイルも広く知られている。このジェルネイルは、爪に塗布したジェル状のネイル剤を、光照射することによって硬化させ爪に一体化させるもので、マニキュア等のラッカーエナメルに比べて硬くて定着性がよく、傷もつきにくい特徴がある。そのため、

10

【0003】

例えば特許文献1には、ジェルネイルの一般的な施術方法が開示されている。通常、爪の表面や爪先の形状を整えた後、ベースジェル、カラージェル、トップジェルの順に各ネイル剤の塗布と硬化とを繰り返す。これらのネイル剤の塗布は、図6に示すように、始めに爪101の幅方向の中央に塗布し、次いで左側、右側と、爪101の長さ方向にネイル筆102を運んで、爪101全体に薄く均一に塗布するのがジェルネイルの一般的な手順とされている。

【0004】

20

どのような色のネイル剤を塗布するかは、ネイルサロン等で施術者（ネイリスト）が被施術者である顧客から好みや希望などを聞きとり、その都度、数多くあるネイル剤の中から適切な色を選び出し、または複数のネイル剤を混合してイメージに合う色のネイル剤を作成するのが一般的である。また、多様な色や模様をネイルチップに施したネイルデザインのサンプルを参考にしたり、ネイルデザインの例を示す写真等を参考にしたりして、どのような色のネイル剤を塗布するかを決める場合もある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2015-189668号公報

30

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

複数のネイル剤を混合してイメージどおりの色を作成するのは容易ではないことから、施術者と被施術者がともに具体的な色を見て意図するイメージを確認し合うことが望ましい。しかしながら、ネイルチップや写真等のネイルカラーのサンプルの作成には時間がかかるうえ、その数にも限りがある。これに対して、ネイル剤を混合して作成し得る色の種類は膨大な数にのぼる。

【0007】

40

例えば、単にピンク色といっても、青みがかったピンク色、黄みがかったピンク色といった色相の違いに加え、明度の高いペールトーン、ライトトーンから、ビビッドな純色のピンク色、くすんだピンク色など、多種類のピンク色が存在する。そのような膨大な数のネイルカラーから、施術すべき1色ないしは複数色のネイルカラーを決定するのに、施術者と被施術者との間での言葉のやりとりだけでは、十分に伝わりきらず、時間もかかるという問題点があった。そのため、施術者にも被施術者にもわかりやすく使い勝手のよい、ネイルカラーを選定するための簡便なツールが求められた。

【0008】

また、肌の色や明るさは人それぞれ異なるので、単に好みのネイルカラーを提供するだけでなく、被施術者にとってどのような色のネイルカラーが似合うのか、どのようなネイルカラーであれば手指や足指が美しく見えるのか、といった判断材料や検討手段を提示で

50

きるようにすることも望まれた。

【 0 0 0 9 】

本発明は、上記のような事情にかんがみてなされたものであり、その目的とするところは、ネイル施術時に扱いやすく、塗布するネイル剤の色を決定するのに好適なネイルカラー見本帳を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 0 】

前記の目的を達成するため、本発明は、ネイルカラーを表示したネイルカラー見本帳であって、シート状の複数の見本帳本体と、前記複数の見本帳本体をひとつに束ねる結束手段とを有し、前記見本帳本体には、ネイルカラーの見本色を示す複数の表示部が備えられ、前記表示部は人の爪形状を模した形を有しており、前記見本帳本体の辺縁部に沿って複数の表示部が並べられてなることを特徴とする。

10

【 0 0 1 1 】

この特定事項により、多数のネイルカラーの見本色を手にとって見ることでネイル施術時に扱いやすく、また表示部を爪にあてがうことでネイルデザインのイメージを思い描きやすくなり、塗布するネイル剤の色を決定するのに好適に用いることができる。

【 0 0 1 2 】

前記ネイルカラー見本帳の具体的な構成として、前記表示部は、爪形状の根元側が前記見本帳本体の辺縁部に接して配置されるとともに長さ方向の中心線が前記辺縁部の稜線に対して傾くように配置されていることが好ましい。これにより、見本帳本体の表示部を爪にあてがいやすく配列することができる。

20

【 0 0 1 3 】

また、前記表示部は、前記見本帳本体の表面側に凸状に設けられており、該表示部の裏面側に指先があてがわれる凹部を備えて構成されてもよい。これにより、見本帳本体の凹部に指先を差し入れて、爪に塗布するネイルカラーのイメージを、より一層、思い描きやすくなることができる。

【 0 0 1 4 】

また、前記見本帳本体は地の部分が透明または半透明とされてもよい。これにより、表示部を爪にあてがったとき、表示部の周囲に指先が透けて見え、より具体的なイメージを思い描くことができる。

30

【 0 0 1 5 】

また、前記ネイルカラー見本帳において、ひとつに束ねられる複数の見本帳本体は、その束ごとに、前記表示部の見本色が、フォーシーズン分類に基づく春のグループ、夏のグループ、秋のグループ、および冬のグループの色としてまとめられた構成とすることで、被施術者に適したネイルカラーを個別に提案したり検討したりすることが可能となる。

【発明の効果】

【 0 0 1 6 】

本発明のネイルカラー見本帳は、ネイル施術時に扱い易く簡便であり、塗布するネイル剤の色を決定する判断材料や検討手段として好適に用いることができる。

【図面の簡単な説明】

40

【 0 0 1 7 】

【図 1】本発明の実施形態 1 に係るネイルカラー見本帳を示す平面図である。

【図 2】前記ネイルカラー見本帳の使用例を示す説明図である。

【図 3】図 3 (a) ~ 図 3 (d) は実施形態 2 に係るネイルカラー見本帳を示し、図 3 (a) は春のグループ、図 3 (b) は夏のグループ、図 3 (c) は秋のグループ、図 3 (d) は冬のグループの見本帳本体をそれぞれ示す平面図である。

【図 4】本発明の実施形態 3 に係るネイルカラー見本帳を示す平面図である。

【図 5】本発明の実施形態 4 に係るネイルカラー見本帳を示す斜視図である。

【図 6】その他の実施形態に係るネイルカラー見本帳を示す平面図である。

【図 7】その他の実施形態に係るネイルカラー見本帳を示す平面図である。

50

【図 8】一般的なネイル施術方法を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0018】

以下、本発明の実施の形態に係るネイルカラー見本帳について、図面を参照しつつ説明する。

【0019】

(実施形態 1)

図 1 は、実施形態 1 に係るネイルカラー見本帳 1 を示す平面図である。ネイルカラー見本帳 1 は、シート状の複数枚の見本帳本体 2 と、複数枚の見本帳本体 2 をひとつに束ねる結束手段とを有している。

10

【0020】

見本帳本体 2 は、短冊状のシート材であり、適度な厚みと柔軟性を有する印刷再現性の高い紙やプラスチックシート等からなる。見本帳本体 2 の結束手段として、見本帳本体 2 の一方の端部には、丸穴 3 が設けられるとともに、丸穴 3 に挿通させるリング 4 を備えている。複数枚の見本帳本体 2 は同じ向きに重ねられて、各丸穴 3 に挿通されたリング 4 によってひとつに束ねられる。

【0021】

見本帳本体 2 には、ネイルカラーの見本色を示す表示部 5 が備えられている。見本帳本体 2 の地の部分（表示部 5 以外の部分）は白地とされている。表示部 5 は、見本帳本体 2 の辺縁部に沿って複数並べられている。各表示部 5 は、人の手指の爪形状を模した形を有し、人の指の爪の大きさおよび形状を象っている。

20

【0022】

これらの表示部 5 は、見本帳本体 2 の長手方向に沿って並べられている。また、表示部 5 は、見本帳本体 2 の長手方向の辺縁部（稜線 L）に接して爪形状の根元部が配置されるときともに、爪形状の先端部が見本帳本体 2 の一方向に傾けて配置されている。

【0023】

図 1 に例示する見本帳本体 2 では、短尺帯状の見本帳本体 2 を横長に用いて、長手方向（左右方向）に 5 つの表示部 5 が均等な間隔で並べられている。見本帳本体 2 には、図 1 における右側に丸穴 3 が設けられており、リング 4 が挿通されている。表示部 5 は、爪形状の長さ方向の中心線が見本帳本体 2 の長手方向の辺縁部の稜線 L に対して傾くように配置され、図中左方向にやや傾いた配置形態とされている。

30

【0024】

ネイルカラーの見本色は、一枚の見本帳本体 2 において、特定の色相について、異なる明度、異なる彩度、または異なるトーン、といった一定の規則性に基づいて 5 つの表示部 5 に示されている。例えば、図 1 に示す見本帳本体 2 では、同一の色相について、右側に配置された表示部 5 から左側に配置された表示部 5 へと順に高い明度の見本色が印刷されている。

【0025】

これにより、一枚の見本帳本体 2 には、特定の色相についての異なる 5 種類のネイルカラーの見本色が示される。また、表示部 5 の配置形態は、甲を上に向けた左手を体の前に差し出したときの手指および爪の傾き状態に近いものとされている。

40

【0026】

図 2 に示すように、ネイルカラー見本帳 1 から特定の色相を表示した一枚の見本帳本体 2 を選び出し、見本帳本体 2 を右手に持って、左手の爪にあてがう。左手の爪に見本帳本体 2 の表示部 5 をあてがうと、ちょうど手指の向きに沿うように複数の表示部 5 が並ぶこととなる。このため、無理なく自然な姿勢で見本帳本体 2 の表示部 5 を自身の手指にあてがってみることができる。

【0027】

このようにして、どのようなネイルカラーを選択するかを検討する際に、ネイルカラー見本帳 1 をただ単に眺めるだけでなく、選択した一枚の見本帳本体 2 を指先にあてがうこ

50

とで、複数の表示部 5 をひとつずつ爪に重ね合わせながら望ましいネイルカラーを選んだり、適当な色であるかどうか等を判断したりすることができる。

【0028】

ネイルカラーの選定にあたっては、同系統の色相について複数の異なる見本色を見比べられることが好ましい場合がある。そのため、一枚の見本帳本体 2 に示す色相は、同一色相とされるだけでなく、例えば類似色相について異なる明度や異なる彩度の見本色とされてもよい。

【0029】

つまり、ひとつのネイルカラー見本帳 1 に示されるネイルカラーの見本色は、次のいずれかのような一定の規則性をもって見本帳本体 2 の表示部 5 に示されていることが好ましい。

10

(1) 表示部 5 の見本色は、一枚の見本帳本体 2 ごとに特定の色相または類似する色相について異なる明度の色が並べられてなる。この場合、見本帳本体 2 の辺縁部(稜線 L)は明度軸に相当し、表示部 5 の配列方向に低明度または高明度とされる。

(2) 表示部 5 の見本色は、一枚の見本帳本体 2 ごとに特定の色相または類似する色相について異なる彩度の色が並べられてなる。この場合、見本帳本体 2 の辺縁部(稜線 L)は彩度軸に相当し、表示部 5 の配列方向に低彩度または高彩度とされる。

(3) 表示部 5 の見本色は、一枚の見本帳本体 2 ごとに特定の色相または類似する色相について異なるトーンの色が並べられてなる。この場合、見本帳本体 2 の辺縁部(稜線 L)は色調軸に相当し、隣り合う表示部 5 に類似トーンの色が配列される。

20

【0030】

ネイルカラーの見本色を示す表示部 5 に対して、その地となる見本帳本体 2 のシート材は、色彩を視認しやすい白色であることが好ましい。見本帳本体 2 をプラスチックシート等にて構成する場合には、見本帳本体 2 を透明または半透明のプラスチックシート材を用いて構成して、表示部 5 の色彩をより際立たせるようにしてもよい。見本帳本体 2 が透明または半透明であることにより、表示部 5 を指先にあてがったとき、肌の色が表示部 5 の周囲に透けて見え、似合う色であるか、あるいはイメージどおりの色であるかといった検討をしやすくなり、ネイルカラーの選択および決定により一層役立つ。

【0031】

複数枚の見本帳本体 2 は、色相が類似するシート同士を重ね合わせて端部の一箇所で束ねられ、ひとつのネイルカラー見本帳 1 としてまとめられている。見本帳本体 2 の丸穴 3 を中心として、複数枚の見本帳本体 2 を扇状に拡げることができ、拡げた見本帳本体 2 には同一半径の周上に複数の表示部 5 が互いに類似する色相のグラデーションで並ぶこととなる。これにより、多数の見本色の中から好ましい色を容易に選択することが可能となる。選択された見本色に基づいて、施術者はネイル剤を選定し、または複数のネイル剤を混合して塗布するネイルカラーを容易に作成することができる。

30

【0032】

また、かかる見本帳本体 2 には、同一の明度または彩度についての異なる色相を示す表示部 5 が配列され、表示部 5 の明度または彩度の高低順に複数枚の見本帳本体 2 が重ねて束ねられてネイルカラー見本帳 1 が構成されてもよい。

40

【0033】

なお、表示部 5 にはネイルカラーの見本色を印刷によって表示するが、プラスチックシート材からなる見本帳本体 2 であれば、印刷に限らず実際のネイル剤等を用いて見本色を示してもよい。結束手段としては、丸穴 3 とリング 4 とを備えるに限らず、種々の止め具や綴じ具等のどのような結束手段を用いてもよく、複数枚の見本帳本体 2 が製本されてもよい。

【0034】

(実施形態 2)

図 3(a) ~ 図 3(b) は、実施形態 2 に係るネイルカラー見本帳 1 を構成する見本帳本体 2 の他の例をそれぞれ示す平面図である。以下に示すネイルカラー見本帳 1 の実施形

50

態では、基本的な構成が前記実施形態 1 と共通していることから、各構成部材の詳細な説明を省略し、当該形態に特有の構成について詳述する。

【0035】

この形態では、短尺帯状の見本帳本体 2 に、長手方向の辺縁部に沿って、5 つの表示部 5 が配列されている。これらの 5 つの表示部 5 も、手を自然に差し出したときの指先の状態に近似させて配列されている。

【0036】

ネイルカラーには、もともとの爪の色や肌の色によって、似合う色と似合わない色とがあると考えられる。つまり、人には肌、髪、目、口の色など外見的な色の特徴に基づいてその人自身に調和しやすい色のグループが存在する。これは一般にパーソナルカラーともいわれており、爪の色においても指先や手の甲の肌色に基づいて、その人に調和して美しく見える色がある。

【0037】

見本帳本体 2 の表示部 5 に示されているネイルカラーの見本色は、一定の規則性をもって表示されている。図 3 (a) ~ 図 3 (d) に示す例にあっては、ひとつの束のネイルカラー見本帳 1 ごとに、グループ化されたネイルカラーの見本色を集めて構成されている。

【0038】

具体的には、ネイルカラー見本帳 1 ごとに、表示部 5 に示すネイルカラーの見本色を、パーソナルカラーにおけるフォーシーズン分類にグループ化して構成している。かかるネイルカラー見本帳 1 の一例として、図 3 (a) は春のグループ (Spring)、図 3 (b) は夏のグループ (Summer)、図 3 (c) は秋のグループ (Autumn)、図 3 (d) は冬のグループ (Winter) にまとめられる見本帳本体 2 をそれぞれ示している。これらには、各グループに属するネイルカラーの見本色が表示されている。そして、これらの 4 種類のネイルカラー見本帳 1 が一組のセットとして構成されている。

【0039】

各グループに属するネイルカラーの見本色の数は、例えば、春のグループでは 39 色、夏のグループでは 43 色、秋のグループでは 41 色、冬のグループでは 36 色と、それぞれ異なる。したがって、グループごとにネイルカラー見本帳 1 としてまとめられる見本帳本体 2 の枚数は異なる。

【0040】

例えば、図 3 (b) に示す一枚の見本帳本体 2 では、夏のグループに属するネイルカラーの見本色のうちの 1 色が 5 つの表示部 5 に示されている。すなわち、この形態では、表示部 5 は 5 つとも同じネイルカラーの見本色を示している。特定の色相について、明度または彩度を異ならせると、異なるグループに属するネイルカラーとなるからである。

【0041】

フォーシーズン分類は、ひとつに、赤、橙、黄、緑、青、紫などの色相を、アンダーローン、明度、彩度、清濁の観点から、それぞれ春、夏、秋、冬の 4 つのグループの見本色に分類したものである。ネイルカラーを選択する際にも、かかるパーソナルカラーにおけるフォーシーズン分類に基づいて、4 種類のいずれかのグループのネイルカラー見本帳 1 を被施術者ごとに選択することができる。

【0042】

選択されたネイルカラー見本帳 1 に集められたネイルカラーは、被施術者に似合う色であり、その中から好ましい色を爪にあてがいながら選択していくことができる。加えて、選択されたネイルカラーは、被施術者に似合う色であるだけでなく、爪および手足をより一層美しく見せ、多くの人に好まれやすく、好印象を与えるネイルデザインを形成することが可能となる。なお、パーソナルカラーの診断方法あっては、種々提案されている公知の方法に委ねることができる。

【0043】

(実施形態 3)

図 4 (a) および図 4 (b) は、実施形態 3 に係る一組のネイルカラー見本帳 1 を示す

10

20

30

40

50

平面図である。

【 0 0 4 4 】

ネイルカラー見本帳 1 において、一枚の見本帳本体 2 に配置する表示部 5 の数は、4 つまたは 5 つであるに限られず、より多くの表示部 5 が備えられてもよい。これによって、より細やかな色の違いを一枚の見本帳本体 2 で示すことが可能となる。

【 0 0 4 5 】

図 4 (a) および図 4 (b) に示すように、実施形態 3 に係るネイルカラー見本帳 1 は、一枚の見本帳本体 2 に 1 2 の表示部 5 を備えて構成されている。これらの 1 2 の表示部 5 には、同一（または同系）のトーンについての異なる色相が示されている。表示部 5 に示される色相は、ブルー、ブルーグリーン、グリーン、イエローグリーン、イエロー、イエローオレンジ、オレンジ、レッドオレンジ、レッド、レッドバイオレット、バイオレット、ブルーバイオレットの 1 2 色であり、隣り合う色相はかかる順に規定されている。

10

【 0 0 4 6 】

例えば、図 4 (a) に示す見本帳本体 2 には、同じペールトーン (P a l e T o n e) 内の色である 1 2 色の色相が順に並べられており、図 4 (b) に示す見本帳本体 2 には、図 4 (a) とは対極に位置するダークグレイッシュトーン (D a r k G r a y i s h T o n e) 内の色である 1 2 色の色相が順に並べられている。これにより、一枚の見本帳本体 2 には、1 2 の表示部 5 に明度および彩度が近似した類似する色相が隣り合って配置されている。

【 0 0 4 7 】

20

ネイルカラー見本帳 1 としてひとつに束ねられる複数枚の見本帳本体 2 は、表示部 5 のトーンレベルの互いに類似するもの同士が順に重ねられて、束ねられている。具体的には、ネイルカラー見本帳 1 には、見本帳本体 2 ごとの表示部 5 のトーンについて、ベリーペールトーン (v p)、ペールトーン (p)、ペールグレイッシュトーン (p g)、ミドルグレイッシュトーン (m g)、ライトグレイッシュトーン (l t g)、ライトトーン (l t)、ソフトトーン (s f)、ブライトトーン (b)、ビビッドトーン (v)、ストロングトーン (s)、ディープトーン (d p)、ダルトーン (d)、ダークトーン (d k)、グレイッシュトーン (g)、ベリーグレイッシュトーン (v g)、ダークグレイッシュトーン (d k g)、ベリーダークトーン (v d k) といった順に、互いに類似する 1 7 種類のトーンが重なり合うようにして束ねられている。これにより、ネイルカラー見本帳 1 の一番上に重ねられた見本帳本体 2 の表示部 5 と、一番下に重ねられた見本帳本体 2 の表示部 5 とは、トーンレベルが対照の関係の配色となる。

30

【 0 0 4 8 】

図示する形態では、異なる 2 つのネイルカラー見本帳 1 を示している。これらのネイルカラー見本帳 1 は、一方は、上から順にベリーペールトーン、ペールトーン、ペールグレイッシュトーン、...ダークグレイッシュトーン、ベリーダークトーン、と徐々に低明度・低彩度のトーンレベルとなるように見本帳本体 2 が束ねられ、他方は、これとは逆順で、ベリーダークトーンからベリーペールトーンへと、徐々に高明度・高彩度のトーンレベルとなるように見本帳本体 2 が束ねられている。すなわち、2 つのネイルカラー見本帳 1 は、それぞれ逆順のトーンレベルの重ね方で複数枚の見本帳本体 2 が束ねられている。

40

【 0 0 4 9 】

これらの 2 つのネイルカラー見本帳 1 は、図示するように、同数枚目の見本帳本体 2 を上下に並べたとき、ネイルカラーの見本色が上下でそれぞれ反対色（対比色）を示すように 1 2 の表示部 5 が配列されている。すなわち、図 4 (a) の見本帳本体 2 における左端の表示部 5 が示すネイルカラーの見本色は、図 4 (b) の見本帳本体 2 における左端の表示部 5 が示すネイルカラーの見本色の反対色とされている。

【 0 0 5 0 】

このように構成されることから、これらの 2 つのネイルカラー見本帳 1 を一組のセットとして同時に用いることで、互いに同枚数目の見本帳本体 2 において、トーンが対照の関係となる色相を並べて見比べたり、トーンが類似の関係の色相を並べて見比べたりするこ

50

とができる。また、当該色相の反対色を直ちにを見つけることもできる。そのため、ネイルデザインを考えたり検討したりする際に大いに役立つ。

【 0 0 5 1 】

一般には、トーンレベルが対照の関係または類似の関係にある色相の配色は調和され、トーン差が大きい色相や反対色同士は目立たせたり際立たせたりする作用がある。したがって、施術しようとする複数のネイルカラーを選択する際に、かかる一組のネイルカラー見本帳 1 を好適に用いることができ、ネイルデザインを決定する際の具体的なイメージ作りにも役立つ。

【 0 0 5 2 】

なお、ネイルカラー見本帳 1 において、見本帳本体 2 の表示部 5 には、同一の明度または彩度についての異なる色相が示されてもよい。この場合、表示部 5 の明度または彩度の高低順に複数枚の見本帳本体 2 が重ねて束ねられて、ひとつのネイルカラー見本帳 1 が構成される。

【 0 0 5 3 】

(実施形態 4)

図 5 (a) および図 5 (b) は、実施形態 4 に係るネイルカラー見本帳 1 を示す平面図である。

【 0 0 5 4 】

前記実施形態では、利き手が右手である場合を考慮して見本帳本体 2 の右端にリング 4 を設けているが、これとは逆に左端にリング 4 が設けられて、表示部 5 に対して右手（または右足）をあてがうように形成されてもよい。この場合、図 5 各図に示すように、表示部 5 の傾きも前述した形態とは反対側に傾けて配置される。

【 0 0 5 5 】

見本帳本体 2 には表示部 5 が 4 つ配列されている。右手の爪に見本帳本体 2 の表示部 5 をあてがうと、右手の親指を除く 4 本の指先があたかも見本帳本体 2 の辺縁部に沿って置かれているかのように表示部 5 が並べられている。

【 0 0 5 6 】

これらの 4 つの表示部 5 には、日本人の肌に合うネイルカラーの見本色が示されている。図 5 (a) に示すネイルカラー見本帳 1 ではベージュトーングループに属するネイルカラーの見本色がまとめられ、図 5 (b) に示すネイルカラー見本帳 1 ではグレイトーングループに属するネイルカラーの見本色がまとめられている。

【 0 0 5 7 】

ベージュトーングループのネイルカラーの見本色は、ビビットトーンの色相にベージュを加えた色味であり、グレイトーングループのネイルカラーの見本色は、ビビットトーンの色相にグレイを加えた色味である。各見本帳本体 2 には、4 つの表示部に、ベージュトーングループまたはグレイトーングループに属する特定の色相の見本色が、トーンの濃淡とともに示されている。

【 0 0 5 8 】

例えば、図 5 (a) に示す見本帳本体 2 には、ベビーピンクのネイルカラーの見本色が、左側の表示部 5 から右側の表示部 5 ほどトーンが薄くなるように配置されている。図 5 (b) に示す見本帳本体 2 には、ローズグレイのネイルカラーの見本色が、同様にトーンを違えて配置されている。

【 0 0 5 9 】

これらのネイルカラー見本帳 1 に示された見本色は、日本人の肌色に馴染みやすく、肌を明るく美しく見せる効果があるが、言葉では言い表しにくい色味でもある。そのため、施術するネイルカラーを選択し決定する際に、かかるネイルカラー見本帳 1 を用いることで容易にイメージに合うネイルカラーを選び出すことができ、しかも日本人の指先を綺麗に見せる効果を奏し、施術者からの提案や被施術者の要望に添うネイルカラーを両者の間で容易に共有することが可能となる。

【 0 0 6 0 】

10

20

30

40

50

(その他の実施形態)

その他の実施形態として、図 6 に示すネイルカラー見本帳 1 では、見本帳本体 2 の表示部 5 に色彩が施されておらず、表示部 5 のアウトラインだけが描かれている。このような見本帳本体 2 は、ネイルカラー見本帳 1 に予備シートとして加えられることが好ましい。

【0061】

これにより、ネイルカラーの見本色を追加する際や新たな見本色を形成した際に、該表示部 5 に塗布または印刷し、ネイルカラー見本帳 1 を構成する複数枚の見本帳本体 2 の一部とすることができる。あるいは、ラメやグリッター等の装飾要素が表示部 5 に表示されてもよい。

【0062】

図 7 に示すネイルカラー見本帳 1 は、見本帳本体 2 の表示部 5 が立体的に設けられている。ネイルカラー見本帳 1 は、前記実施形態と同様に、図示しない複数枚の見本帳本体 2 が重ねられてリング 4 により束ねられている。

【0063】

この場合、表示部 5 は、見本帳本体 2 の表面側に凸状となるように、人の爪形状を模した曲面状に設けられ、見本帳本体 2 の左側に傾けて配置されている。表示部 5 の裏面側には、窪んだ爪形状の凹部 6 が形成されている。これにより、指先を見本帳本体 2 の裏面側の凹部 6 に差し入れて、表示部 5 を指先にあてがうことができる。

【0064】

表示部 5 には、前記実施形態と同様に一定の規則性をもってネイルカラーの見本色が表示されるほか、例えば、複数のネイルカラーの見本色を含み、ネイルデザインの具体的な柄や模様等が施されてもよい。また、表示部 5 は、その凸状の表面に、スタッズや人工石等の装飾パーツが取り付けられて立体的なネイルデザインのサンプルとして形成されてもよい。

【0065】

表示部 5 が多様な色彩から構成されるのに対して、地となる見本帳本体 2 は透明、半透明、または白色とされることが好ましい。見本帳本体 2 を透明または半透明のプラスチックシート材を用いて構成した場合には、表示部 5 を見本帳本体 2 の表面側に凸状となるように一体成形する。見本帳本体 2 が透明または半透明であることによって、指先を凹部 6 に差し入れたとき、肌の色が表示部 5 の周囲に透けて見えるとともに、表示部 5 が自身の爪に重なり合うように見える。これによって、より一層ネイルカラーを検討したり選択したりしやすくなり、具体的なイメージを施術者と被施術者との間で共有することができる。

【0066】

以上のとおり、本発明に係るネイルカラー見本帳 1 は、ネイル施術時に扱い易く簡便であり、塗布するネイル剤の色を決定する判断材料や検討手段として好適に用いることができる。なお、ネイルカラー見本帳 1 において表示部 5 に示すネイルカラーの見本色は、前記実施形態にて説明した色に限定されるものではなく、他のどのようなネイルカラーの見本色が示されていてもよい。

【産業上の利用可能性】

【0067】

本発明は、爪へのジェルネイルの施術に好適に利用可能である。

【符号の説明】

【0068】

- 1 ネイルカラー見本帳
- 2 見本帳本体
- 3 丸穴
- 4 リング
- 5 表示部
- 6 凹部

10

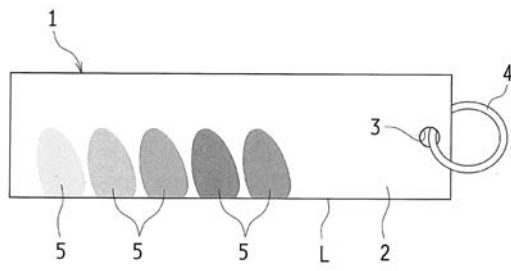
20

30

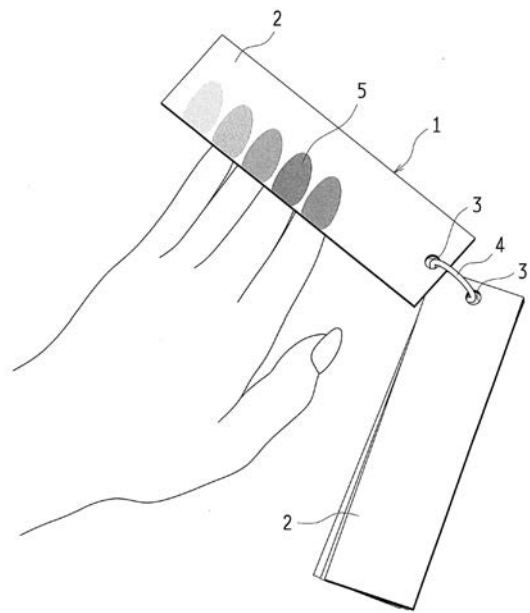
40

50

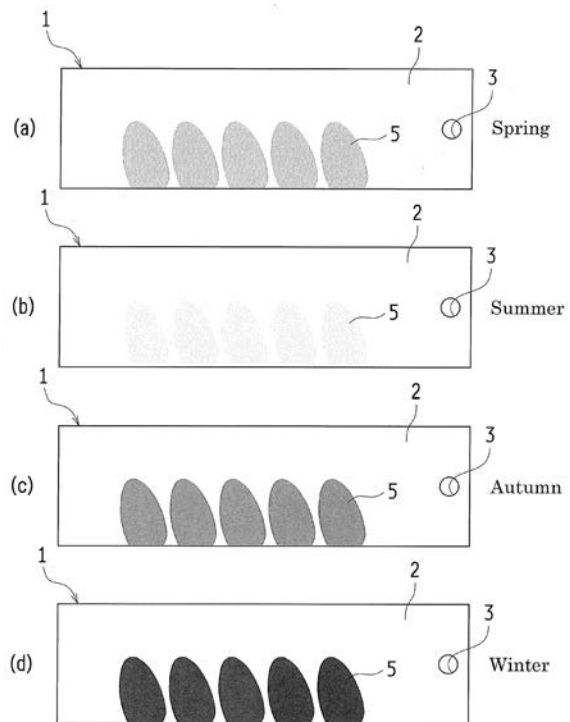
【 図 1 】



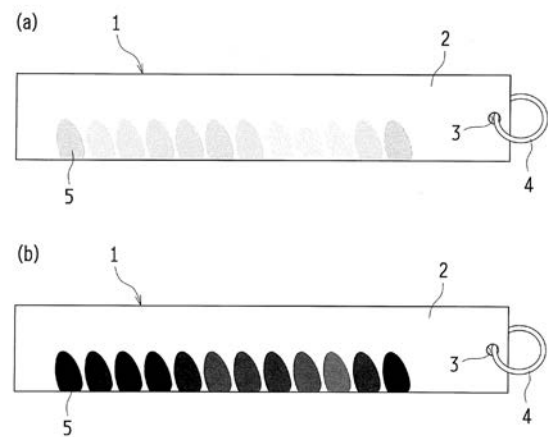
【 図 2 】



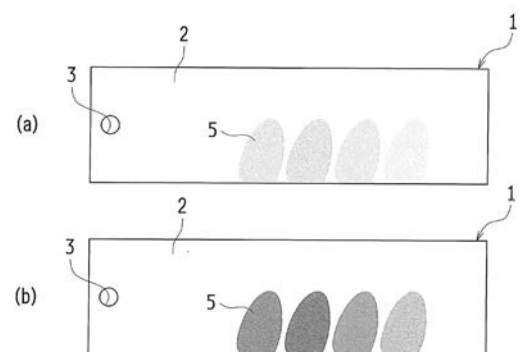
【 図 3 】



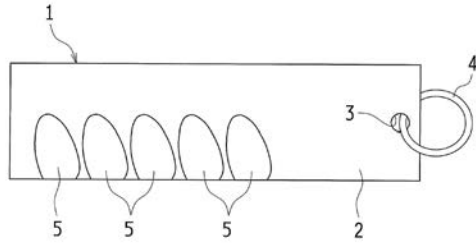
【 図 4 】



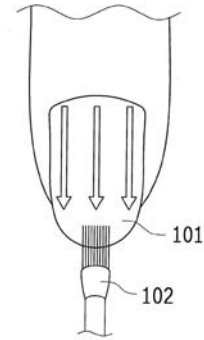
【 図 5 】



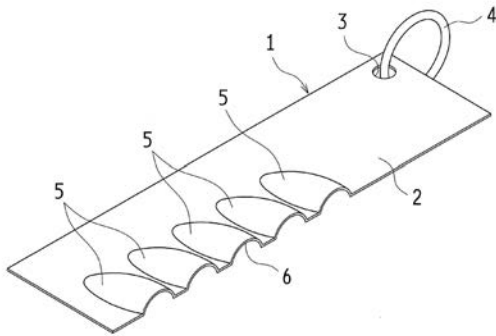
【図 6】



【図 8】



【図 7】



【手続補正書】

【提出日】平成28年10月26日(2016.10.26)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ネイルカラーを表示したネイルカラー見本帳であって、

シート状の複数の見本帳本体と、前記複数の見本帳本体をひとつに束ねる結束手段とを有し、

前記見本帳本体には、ネイルカラーの見本色を示す複数の表示部が備えられ、

前記表示部は人の爪形状を模した形を有し、前記見本帳本体の辺縁部に沿って複数の表示部が並べられ、

前記表示部は、爪形状の根元側が前記見本帳本体の辺縁部に接して配置されるとともに長さ方向の中心線が前記辺縁部の稜線に対して傾くように配置されていることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項 2】

ネイルカラーを表示したネイルカラー見本帳であって、

シート状の複数の見本帳本体と、前記複数の見本帳本体をひとつに束ねる結束手段とを有し、

前記見本帳本体には、ネイルカラーの見本色を示す複数の表示部が備えられ、前記表示部は人の爪形状を模した形を有し、

前記複数の表示部は見本帳本体の辺縁部に沿って並べられ、

前記表示部には、見本帳本体の１シートごとに同一の明度または彩度についての異なる色相が示され、

前記複数の見本帳本体は、前記１シートごとの表示部の明度または彩度の高低順に重ねて束ねられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項３】

ネイルカラーを表示したネイルカラー見本帳であって、

シート状の複数の見本帳本体と、前記複数の見本帳本体をひとつに束ねる結束手段とを有し、

前記見本帳本体には、ネイルカラーの見本色を示す複数の表示部が備えられ、前記表示部は人の爪形状を模した形を有し、

前記見本帳本体の辺縁部に沿って複数の表示部が並べられ、

前記表示部には、見本帳本体の１シートごとに同一のトーンについての異なる色相が示され、

前記複数の見本帳本体は、前記１シートごとの表示部のトーンが互いに類似するものを順に重ねて束ねられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項４】

請求項１に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体には、１シートごとに同一色相または類似色相についての異なるトーン色を示す表示部が並べられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項５】

請求項１に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体には、１シートごとに同一色相または類似色相についての異なる明度色を示す表示部が並べられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項６】

請求項１に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体には、１シートごとに同一色相または類似色相についての異なる彩度色を示す表示部が並べられてなることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項７】

請求項２または３に記載のネイルカラー見本帳において、

前記表示部は、爪形状の根元側が前記見本帳本体の辺縁部に接して配置されるとともに長さ方向の中心線が前記辺縁部の稜線に対して傾くように配置されていることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項８】

請求項１～７のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

前記表示部は、前記見本帳本体の表面側に凸状に設けられており、該表示部の裏面側に指先があてがわれる凹部を備えることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項９】

請求項１～８のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

前記見本帳本体は地の部分が透明または半透明とされたことを特徴とするネイルカラー見本帳。

【請求項１０】

請求項１～９のいずれか一つの請求項に記載のネイルカラー見本帳において、

ひとつに束ねられる複数の見本帳本体は、その束ごとに、前記表示部の見本色が、フォーシーズン分類に基づく春のグループ、夏のグループ、秋のグループ、および冬のグループにまとめられていることを特徴とするネイルカラー見本帳。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

前記の目的を達成するため、本発明は、ネイルカラーを表示したネイルカラー見本帳であって、シート状の複数の見本帳本体と、前記複数の見本帳本体をひとつに束ねる結束手段とを有し、前記見本帳本体には、ネイルカラーの見本色を示す複数の表示部が備えられ、前記表示部は人の爪形状を模した形を有しており、前記見本帳本体の辺縁部に沿って複数の表示部が並べられてなる。さらに前記表示部は、爪形状の根元側が前記見本帳本体の辺縁部に接して配置されるとともに長さ方向の中心線が前記辺縁部の稜線に対して傾くように配置されていることを特徴とする。

【 手 続 補 正 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 1

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 1 】

この特定事項により、多数のネイルカラーの見本色を手にとって見ることでネイル施術時に扱いやすく、また表示部を爪にあてがうことでネイルデザインのイメージを思い描きやすくなり、塗布するネイル剤の色を決定するのに好適に用いることができる。また、見本帳本体の表示部は、爪にあてがいやすく配列されており、扱いやすいものとすることができる。

【 手 続 補 正 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 1 2

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 1 2 】

また、本発明は、ネイルカラーを表示したネイルカラー見本帳であって、シート状の複数の見本帳本体と、前記複数の見本帳本体をひとつに束ねる結束手段とを有し、前記見本帳本体には、ネイルカラーの見本色を示す複数の表示部が備えられ、前記表示部は人の爪形状を模した形を有し、前記複数の表示部は見本帳本体の辺縁部に沿って並べられてなり、前記表示部には、見本帳本体の1シートごとに同一の明度または彩度についての異なる色相が示され、前記複数の見本帳本体は、前記1シートごとの表示部の明度または彩度の高低順に重ねて束ねられてなることを特徴とする。あるいはまた、前記表示部には、見本帳本体の1シートごとに同一のトーンについての異なる色相が示され、前記複数の見本帳本体は、前記1シートごとの表示部のトーンが互いに類似するものを順に重ねて束ねられてなることを特徴とする。